学校番号	119

令和３年度　地理歴史　　科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校日本史Ｂ　新訂版　実教出版						
副教材等	最新日本史図表　三訂版　第一学習社						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年次の授業範囲は、原始・古代から鎌倉時代末である。
当該の時代について、歴史的事象を客観的、主体的に判断し、主権者として歴史的事象の把握を積極的に生かせるよう指導する。
教科書の記述の理解をすすめるとともに、「図表」および関連の史料を積極的に活用する。

2　学習の到達目標

文化、社会・政治・経済の歴史的な特色を理解し、そのことに基づいて、社会の様々な状況に対して主体的に判断し、行動することの出来るよう生徒を指導する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本史に関する事象について、特に文化、政治、経済の基礎的知識を前向きに習得するよう努める。 日本史についての理解に基づき、国際社会に生きる有意な日本国民となるよう指導に勤める。	日本史に関する基礎的、発展的な知識に基づき、日本の社会や国際社会のあり方の特色について、主体的に考察、判断しているか。	各時代の諸資料や図表などを積極的に活用するとともに、適切な読み取りや判断を行うことができるか。また諸資料や図表の内容を自身の力でまとめて活用することができるか。	日本の歴史についての基本的な事象を前後の時代の状況と関連づけ、日本の歴史の特色を理解している。
評価方法	レポート課題 討論・発表 発問評価	定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り 発問評価	定期テスト レポート課題 討論・発表	定期テスト レポート課題 討論・発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	D		
1学期	1．日本文化のあけぼの 2．農耕社会の成立	・旧石器時代の日本が、地理的制約の元で、独自の特色を持っていた。 ・縄文文化が世界史的にもまれな、高度な生活体系を持っていたこと、またその要因を考える。 ・弥生時代の特色について、特に対外的な関係と、内的な要因をについて、考える。 ・古代国家の形成に至る過程を、古墳文化の特色の検討などを通じて考える。 その際、対外的な要因に留意する。	○	○	○	○	a:原始および古代の文化，社会の特色について関心を深め、その特色を積極的に把握しようとしている。石器文化や縄文文化の特色について、関心と理解を深めているか。 b:旧石器文化や縄文文化の特色について、図表の内容などを的確に理解し、示すことができるか。 c:地図，図表などの意味を把握し明示することができるか。 d:原始・古代に関して、基礎的な知識を獲得して理解を深め、さらに発展的な知識の習得に取り組んだ。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査
2	3．律令国家の形成 4．貴族政治と国風文化	・律令国家が、急速な社会発展の上に成立したことについて考察する。また、その際律令国家が畿内貴族が地方を支配することによって成立したことを考察する。 東アジア世界の支配体制を参考にしつつ、日本独自の支配体制を作り上げ、変化させていったことを学ぶ。 ・律令時代の文化と国風文化の差異とその原因を考える。 ・律令国家が変容し、貴族政治が成立したことの要因について考察する。	○	○	○	○	a:律令国家の成立と変容について、関心をもって知識の習得と考察に取り組んだか。 ｂ:律令国家の成立と変容の内容の意義について、習得した知識に基づいて判断し、提示できる。 ｃ:図表（地図，表など）や資料（史料）などを用いて、考察を進めることができる。 ｄ:律令国家の成立と変容の内容と意味を正しく理解しているか。またアジア地域との関係・交流を理解しているか。 国風文化成立の意義を正しく理解しているか。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査

3	4. 中世社会の成立	・院政と平氏政権成立の要因と意義を考察する。 ・鎌倉幕府が東国武士政権から全国政権へと発展したことの内容を考察する。 ・鎌倉時代の社会の特色について、室町時代への連続性と「断絶性」の意義を考察する。 ・蒙古襲来の要因を東アジア，ユーラシア大陸状況を踏まえて、学習する。また、蒙古襲来の影響を確認する。 ・鎌倉幕府滅亡の要因を、当時の社会的状況を踏まえて考察する。	○	○	○	○	a：古代末期の社会，政治状況の内容と意味について、関心をもって学習に取り組んでいるか。 b：古代社会から中世社会への変化について、図説や史料に基づいて、正確に判断できるよう考察を進める。 c：図（地図，表など）や資料（史料など）を適切に使用し、その事実に基づいて、判断できるようにする d：古代社会から中世社会への変化について、国際状況を含めて理解できているか。 　院政期から鎌倉時代の文化の背景を正確に理解しているか。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：技能　　d：知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。